

清水高原(きよみずこうげん)歳時記(長野県道完走編)

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第27集 (長野県道 1 号線～508 号線)

残りの県道は? 63 <1～100>(2)64・97<101～200>(9)109・121・122・143・153・156・
157・158・186<201～300>(13)210・223・224・233・234・236・237・243・247・
250・251・252・273<301～400>(14)324・325・335・351・366・368・370・371・372・
375・377・378・384・392<401～508>(25)401・402・406・411・414・417・418・419・
421・430・435・437・438・441・452・454・455・456・465・474・480・481・491・
492・503

NO.183 久米川温泉を拠点に南信の県道を紹介する

(長野県道 64 号走破) (長野県道 491 号走破)

NO.184 立科から小諸までを浅間山を見ながら(県道 153 号線)走る

(長野県道 153 号走破) (長野県道 438 号線走破)

NO.185 長野市街の東端をぐるっと回りました

(長野県道 371 号走破) (長野県道 372 号走破)

NO.186 美鈴湖森の国オートキャンプ場に桜を見に行った

(長野県道 454 号走破)

NO.187 国道 292 号線で新潟県境を越えました(富倉そば)

(長野県道 97 号走破) (長野県道 411 号/新潟県道 412 号線走破) (長野県道 417 号走破)
(長野県道 503 号線走破)

NO.188 松原湖を通る県道 480 号線(松原湖高原線)を走る

(県道 480 号走破)

NO.189 クマザサ(隈笹)の花・60 年に一度咲く?

久米川温泉を拠点に南信の県道を紹介する

澤田 繁 著

(長野県道 64 号走破)(長野県道 491 号走破)

2026.2.17、自宅を出て、塩尻駅方面に向かい、塩尻駅から県道 301 号線(塩尻停車場線)を通り国道 153 号線に出ました。善知鳥峠を越え辰野町の伊北インターから中央道に乗り、山本インターで降りて、国道 153 号線に出て阿智村方面に向かいました。阿智村(会地・智里・伍和・浪合・清内路)に入り、春日交差点を左折し、“Aコープブラックあち”で休憩した。春日交差点から県道 64 号(下條村方面)と県道 234 号(天竜峡方面)が走っており、どちらにしようか迷ったが、今日は県道 64 号線(天竜公園阿智線)にしました。交差点から 600m 程で、県道 234 号線と分岐し南に向かう。阿知川を渡り、春日地区から伍和地区に入ると、耕作地が広がり、徐々に登って行く、このあたりの標高が約 600m で松本市街と同じで、阿知川は東に流れ天竜川に注ぐ。下條村の国道 151 号線に下る直前までは、600m ~ 650m くらいの標高を登ったり降ったりしながら進む、2021.1.19 に阿智村から国道 151 号まで走っていたので、今回は寄り道をして見ました。まだ花を見るには早いと思いましたが、座禅草と福寿草の場所に行く事にしましたが、県道 64 号線を走りながら案内標識を探して走っていましたが、案内標識を見つけ 64 号線から、はなれて進みましたが、行きつけずに「北清見平」(標高 840m)に着き、間違いに気づき引き返して、福寿草の場所(標高 740m)にたどり着きました。やはりまだ早いのと、駐車場がなく結構歩くようなので、場所を特定し、県道 64 号線に戻るように進みました。沢を越え下條村に入り、極楽峠 1 番観音下を通り、農園が多くある草原に着いた。



下條村の国道 151 号線を通るたびに、耕地らしいところがあまり見当たらないので、ずっと不思議に思っていた。今回は草原(写真)から村に入ったので、農園や耕地を多く見る事が出来たので、疑問も解消した。

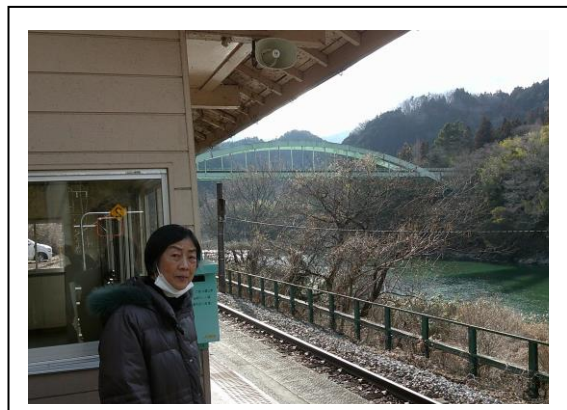


下條村は、下伊那に 2 社しかない式内社の大山田神社が置かれ、奈良時代より拓かれた村です。村名は、室町時代のはじめ甲斐の国(現・山梨県)からこの地に入り、



室町中期から戦国期に全盛を極めた下條氏(甲斐源氏小笠原氏の分流)に由来します。江戸時代 14 村あった村が明治 8 年、合併の気運が高まり、睦沢村(むつざわむら)と陽阜村(ひさわむら)の 2 村となりました。その後、有力町村を造成することを趣旨に県の町村合併案が策定され、これに基づき、明治 22 年 4 月 1 日両村が合併して現在の下條村が誕生しました。

県道 64 号線に戻り、東に進むと下りになり国道 151 号線(標高 500m)に出て、300m 程国道 151 号線と重複して走り、谷に沿って下って行きました。長瀬橋(標高 380m)が見え天竜川に到着した。ここから泰阜村に入り、



り、県道 64 号線の終点(泰阜村・県道 1 号線交



点)までは、2021.11.16 に逆コースで走っていたので(県道 64 号線走破)、今日は天竜川周辺を散策して引き返す事にした。橋を渡りすぐ左に降りる道があり、下って行った所に「唐笠駅」があり、ホームに出て橋と駅を撮った。駅の先には、

天竜下りの唐笠港があった。天竜下りは、2 航路(天竜ライン下り・天竜舟下り)あり、唐笠港まで来るのは、天龍ライン遊舟会社運行の天龍峡温泉港が出發で約 50 分の旅となる。冬季は 2 便・それ以外は 4 便あり、運賃は¥3600 となっている。駅の周りを歩いていたら「かけい」らしきものと、やすおか村の民話からの説明文があり、要約すると『京都の詩仙堂の庭にある「添水」は、天竜川を船で下るところの唐笠谷、大久保の長とろで聞いたトンキラ(青竹に水を湛え、その水を一度に落として、竹の下の大石を叩く・猪や鹿を追い払う)の話がもととなっている」と言い伝えられている』である。駅を出發して、県道 64 号線を下條村に戻って行きました。

国道 151 号線を越え、標高 600m 地点の平な所の集落(親田)付近に県道 491 号線(親田中村線)の入り口を見つけ、ここから



久米川温泉を目指しました。耕作地・集落と山(高くない)とがかわるがわる現れる道であった。下條村から阿知川を渡ると、旧三穂村(伊豆木・下瀬・立石)の立石地区に入り、

立石の雄スギ(夕日御影杉)の前で車を止めた。川を渡る前に、郵便受けとは違う新聞受けらしきものがあだったので写真を撮ったが、私の自宅も新聞配達はしない所で、一時数キロ先の配達区間に設置をした事を思い出した。大杉は、かなり太くて高い杉であった。少し離れた東側に雌スギ(朝日御影杉)



があり、お彼岸の時に、太陽の影が根元に届くことから御影杉とも呼ばれている。雄スギの平成 2 年の計測では、高さ 41.6m 周囲 9.8m（直径 3.12m）となっていて、雄雌スギとも樹勢も衰えず樹形も整った堂々としたその大きさから、県下有数の杉の巨木と言われている。立石地区のシンボルの杉を後にして、一山超えて立石地区から伊豆木地区に入り、県道 234 号線と一緒にあった。しばらく重複して走り、分岐点に来て、県道 491 号線は



旧山本村（山本・竹佐・久米・箱川）の久米地区に入り、低い山に囲まれた耕作地があり、集落が点々とある久米地区で写真を撮った。その先に「久米川温泉」の案内があり右折して温泉に着いた。久しぶりの温泉に早速入浴しに行った。温泉に入りながら、腰のケアの運動を行い、食事の時間まで部屋で休憩した後、旅館の料理を食べました。少し豪華過ぎました。次の日、朝 9 時過ぎに



左折して進む、県道 234 号線は直進して天竜峡に行く、右折は下条村に行く。

左折してすぐに「旧小笠原家書院」があり、県道 491 号線沿いに駐車場があり、そこから歩いて 200m 程の所に建物がある。今回は道路工事をしていたので駐車場を通り過ぎたので次回に見学する事にした。

三遠自動車道の下をくぐると、旧三穂村から



旅館を出て、県道 491 号線を飯田方面に向かいました。旧山本村から旧伊賀良村の中村地区に入り、下中村交差点で県道 233 号線と交差し県道 491 号線は終了した（県道 491 号線走破）。

下中村交差点を直進し、飯田市道運動公園通りになり国道 153 号線との交差点である上殿岡交差点を左折し、国道 153 号線に入り飯田インターから中央道に入りました。旅館から 10 分強で高速に乗れた。家には 11 時前には着くことが出来ました。午後に病院への通院

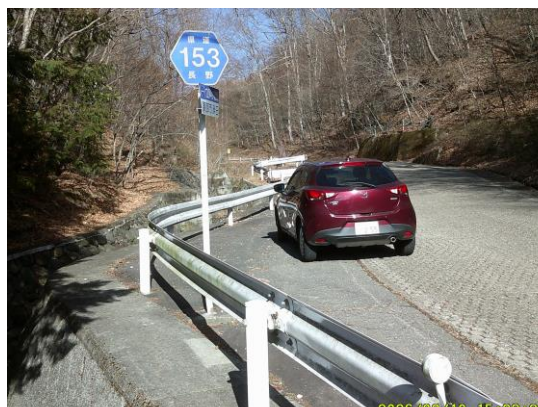
があっても十分間に合う事になるので、南信地域の県道を紹介するのに、大いに役立つこととなりました。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.3.10

立科から小諸までを浅間山を見ながら(県道153号線)走る 澤田 繁 著
(長野県道153号走破)(長野県道438号線走破)

2026.3.10、松本の実家により、昼食を里山辺にある「なご味」でそばとラーメンを食べ三才山トンネル(国道254号)を通り、長和町まで行き、道の駅「マルメロの駅ながと」で休憩しました。少し戻って国道254号線で、峠を越え、立科町宇山に入りました。峠を降り芦田宿入口交差点で、国道142号線と一緒にになり、国道を立科町市街地に、白樺高原入口交差点を一旦過ぎ、その先1kmの「道の駅女神の里たてしな」に寄り、戻って来て、県道153号線の起点(もっと先が起点かも知れない)である白樺高原入口交差点から小諸を目指しました。しばらく走り、県道148号線と交差し、立科町芦田地区から塩沢地区に入りました。塩沢地区の県道153号線(立科小諸線)は2車線の整備された道で、立科町から東御市に入り、鹿曲川によって浸食された谷間にある東御市下之城地区に向かって降り、県道



166号線と交差をした。この先県道153号線



の案内はなく、そのまま直進すると狭い集落の道になった。ナビで県道153号線を探して集落を出ると、登りの狭い道になった(写真)。登ると丘に入り、しばらく行くと集落が見えて来て、道も2車線になった。この丘が東御市御牧ヶ原地区

区であり、かつての馬の産地である。県道423号線と交差(県道423号:御牧原大日向線終点)をし、丘を進むと、県道438号線の始点と交差した。

2022.10.4、佐久平を散策した後、県道44号線进行、旧南牧村(八幡・蓬田・桑山・矢嶋)に入り。町浦橋交差点を右折し、県道438号(御牧原蓬田線)に入った。始点は、左折し旧中山道(八幡宿)を通り、国道142号線の八幡西交差点とある、以前にこの区間走った事がある。布施川を渡りすぐに河岸段丘を登る



カーブの多い道を上がると丘になった。蓬田地区から布施地区（旧望月町）に入り、さらに御牧原地区で県道 153 号線と合流した（県道 438 号線走破）。県道 438 号線は、約三分の一がセンターライン付きの 2 車線まで整備されているが、残りは乗用車がようやくすれ違える程度の道路であった。この日は、県道 153 号線を少し走り、県道 423 号線に入り、田中駅付近から国道 18 号線に入り、千曲市の娘の家によって帰宅した。

2026.3.10、下の写真は、県道 438 号線との交点から県道 423 号線までの県道 153 号線から撮った御牧原の風景です、今は溜池などが多く、田んぼが多いが、かつては、丘に馬がいる風景であった事を想像するし



かない。県道 438 号線との交点から県道 153 号線を少し走ると小諸市に入った。少し進むと「長野県農業大学校→」「野菜花き試験場佐久支部→」の案内があったので右折して、様子を見に行きました。研修所の建物はありました。

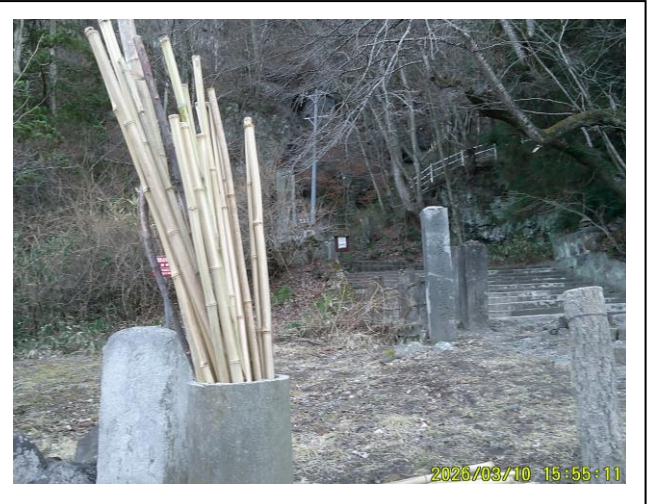
長野県農業学校は、長野県が運営する農業大学校。1976 年に長野県農業技術大学園と農業高等学園が改組統合して開校した。もともとは大正 2 年創立から始まっている。学科キャンパスは、

総合農学科（1・2 年）・専門技術科：松代キャンパス・長野市松代町大室／**研修部：**小諸キャンパス・小諸市大字山浦／**実科・研究科：**果樹実科・研究

科・須坂市大字小河原 果樹試験場内／**野菜花き実科・研究科**・塩尻市大字宗賀字床尾 野菜花き試験場内／**畜産実科・研究科**・塩尻市大字片丘 畜産試験場内／**南信農業実科・研究科**・下伊那郡高森町下市田 南信農業試験場内。松代キャンパスは、上越道の長野インターから須坂方面に 2km 程行った右側の山添いにある。小諸キャンパスが前述の県道 153 号線沿いにあった。果樹実科は、須坂駅の北 1km 程の相森中学校横にあるが行った事はない。畜産学科は、塩尻市の塩尻インター付近にあり何回か横を通った事がある。南信農業実科は、飯田線市田駅の真西 2km 程の所にあるが横を通った事もない。

原村の農業大学校の直売所は、若い時にテニスの合宿した時から最近でも寄った事があるので、てっきり長野県農業大学校と思っていたが、調べると、名称が**八ヶ岳中央農業実践大学校**となっていて、昭和 13 年開校の歴史ある学校であった。

県道 153 号線の農大前まで戻り、旧川辺村（現小諸市）の山浦地区から大久保地区に入り、千曲川の河岸段丘をゆっくり下り始めた。坂の途中に「いちご狩り」の登り旗があり、「あぐりの湯こもろ」の建物があった。ここには野菜の直売所や食堂もあるようなので次回は寄ってみようと思いながら通過し、千曲川に架かる布引大橋を渡り、すぐに、県道 153 号線の終点になった。終点の先は市道を通り河岸段丘を登り国道 18 号線に接続している。終点より戻り、橋を渡った所すぐに県道 153 号線の分岐があり左折すると、県道 40 号線と交わった（もう一つの終点、県道 153 号線



走破)。この日は、県道 40 号線を上田方面に向かい、途中布引観音への山道の入口（写真）で車を止め休憩し、東御市の牧家西交差点で国道 18 号線に入り、国道を走り、千曲市まで行き、娘の家に寄って帰宅した。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

又は澤田繁のホームを検索し、ホーム⇒歳時記

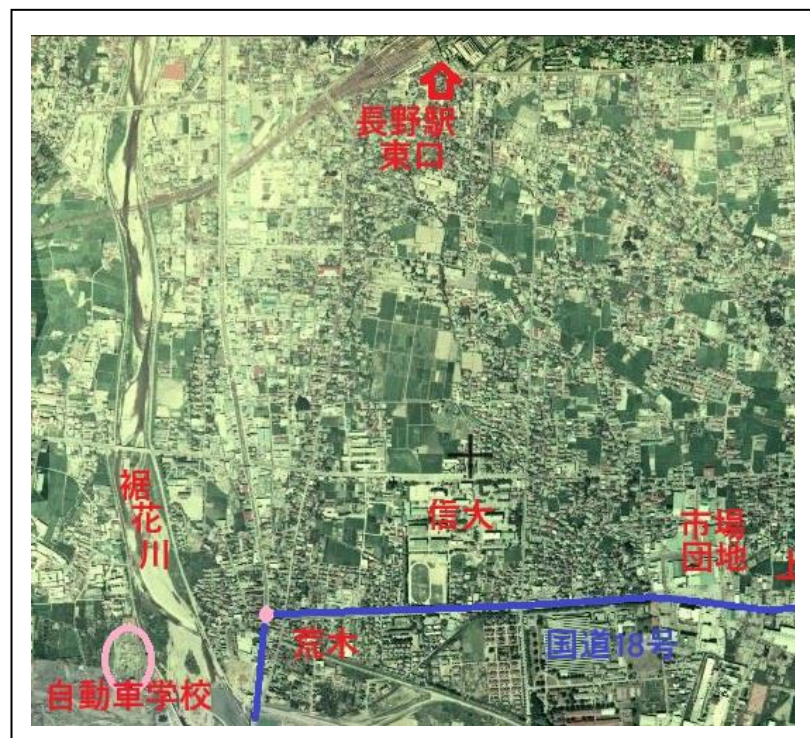
《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.4.14

長野市街の東端をぐるっと回りました

澤田 繁 著

(長野県道 371 号走破)(長野県道 372 号走破)

2026.4.14、自宅を出て、千曲市の娘の家に寄り、八幡原近くの女房の実家にも寄り、長野市街に向かい、犀川に架かる丹波橋を渡り、荒木の交差点に着いた。56 年前に下宿を探しに来た場所でもある。当時は、国道 18 号線(現在県道 372 号線)が直角に曲がる三叉路の交差点であったが、今は裾花川に橋が出来、十字路の交差点になっている。丹波橋から来て荒木の信号を右折すると県道 372 号線(三才大豆島中御所線)に入る。上千田の交差点まではかつての国道 18 号線であり、トラックの多く通る道であった。現在は 4 車線(片側 2 車線)になっており、交通量も多い。



オリンピックのアイスホッケー会場のビックハットは、1972 年に間借りをした時の近くで市場団地であった所である。フラット・・・間借り先に行ってみようとビックハット手前を左折し狭い田んぼ道が住宅街になった所をうろうろしたが見覚えのある所には会わず無駄な努力でした。

大学から長野駅まで歩いて何度か往復したが、当時、道脇は田んぼや畑がほとんどだった記憶があり、1975 年頃の航空写真(左図)を探した結果間違いありませんでした。長野駅の東口は、小さな出入り口のある(西側)ところのホームから長い陸橋を渡り、階段を下りた所にちょっとした改札がある所でした。このこ

ろはまだ東口開発が始まっておらず。こののちゲームのシムシティのように発展し、当時とは全く違う東口になっている。昭和 29 年まで芹田村(稲葉・若里・中御所・栗田・鶴賀(七瀬)・川合新田)は、ほとんどが住宅地や商業地になっている。

現在の国道 18 号線と交差する上千田交差点を直進し、県道 372 号線は、片側 1 車線の道路になりました。約 1.5km 行くと、昭和 29 年まで大豆島村(大豆島。風間)に入り、松岡神社の角を左折するとすれ違いがむずかしい 1 車線の道路(写真)になり対向車を気にしながら進みました。途中から畑が両脇に見えだしました。狭い道は、五輪大橋(2026 年 12 月無料化)から来る道路と五輪大橋北交差点で交わり、ここからは 2 車線の五輪大橋道路のため整備された道路になり、店舗も道路沿いにある。東長野バイパスが開通し、道の拡張整備も始まっていた。



エムウェーブが見え、県道 58 号線との交差点を過ぎ、長野東バイパスに入り、500m 程進んだ交差点を左折した。県道 372 号線は、分岐して屋島交差点までは残っている(バイパスができるまでは迂回していた)。エムウェーブ近辺からは、昭和 29 年まで朝陽村(北長池・屋島・北尾張部・石渡・南堀・北堀)であった北

ながいけ
長池に入り、途中のファミリーマート北長池店で休憩をした。この辺までは、まだ耕作地が見える状態が続いていたが、ここから県道 372 号線の終点である三才駅までは、道路の両側は建物が建っていた。朝陽小学校横を通り、国道 18 号線を突っ切り、旧朝陽村を縦断し、旧古里村（富竹・かねぼこ金箱・上駒沢・下駒沢・三才）に入り、少し走ると三叉路に出て、右折すると乗用車がようやくすれ違える程の狭い道になり 600m 程続いた。新幹線の下をくぐり、県道 399 号線と交わり、左折し 1000m 程進んで県道 372 号線の終点の三才駅に



着いた（県道 372 号線走破）。

三才駅は、4 月 1 日から無人化となり、2000 年後半から人気となった入場券がなくなりました。三才地区はかつては馬の産地であり、馬が一人前とされる三歳馬を由来とした地名がつけられたという所であり、駅前には、記念写真を撮る所は健在していたので、七を削除して 3 本の指でポーズを取って写真撮影をしました。この駅の周辺は、夕方のせいか、学生が多く賑わってがいました。



三才駅の北側は、小高い丘になっており、丘の上に病院がある。病院を目指して、丘に駅より登ると丘の下は、斜面の広い団地になっており、団地内をぐるぐるまわったが、目指す丘に登る道はなく、しかたなく団地から降りて、県道 399 号線に出た。この付近に、たしか長野高専があり、県道 399 号の道沿いには、長野市立長野中学校・長野高等学校（平成 20 年まで長野皐月高等学校）があった。学校を過ぎ、東長野病院南の信号を右折する。この道を使っ

て、丘を登ると県道 371 号線との十字路になり、右折すると、すぐに清泉大があり、更に進むと、東長野病院を見つけた。東長野病院は、1939 年^{しょうらい}傷痍軍人長野療養所として設立、1947 年昭和天皇の戦後巡幸、昭和天皇が慰問を行う、国立長野療養所として新たにスタートし、1971 年に国立療養所東長野病院と改組され、2004 年・組織改編のため独立行政法人国立病院機構東長野病院と改称された。

長野県道 371 号線（療養所上野線）は、東長野病院から丘の上を、途中旧古里村を眼下にし（写真）清泉大横を通り、東長野病院南交差点から登って来た道の十字路を直進し、500m 程行くと終点である県道 60 号線（現在西側に若槻大通りに新線が開通している）の北国街道に突き当たった（県道 371 号線走破）。この路線は、2021 年に県道としては指定がなくなり、長野市道になっている。路線名が示すように、旧若槻村（東条・徳間・稲田・^{まゆみだ}檀田・吉）の上野地区を走る。周辺には団地もあり、道路脇は住宅地になっていた。



北国街道にでたので、北国街道を北上し、田中交差点からは、県道 60 号線から離れ、旧若槻村北部の田中・田子・吉地区の北国街道を通り、さらに西条地区を通り、山を越えた感じで旧牟礼村の平出地区に入った。少し街道筋を味わった。平出地区から先は、北国街道を外れ、牟礼駅まで行き、北信五岳道路に出て、中野インターから帰宅した。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

又は澤田繁のホームを検索し、ホーム⇒歳時記

《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.4.21
美鈴湖もりの国オートキャンプ場に桜を見に行ったら
(県道 454 号線走破)

澤田 繁 著

2026.4.21、松本盆地(標高 600m)の桜が散ってしまい、盆地より高い所に徐々に満開が移って行きます。自宅(標高 1200m・今年は 28 日に満開になった)のある清水高原までは、まだ満開には日があるので、美鈴湖に桜を見に行きました。梓川の土手道路を走り、梓川スマートインターの横を通り、国道 19 号線の交差点である広瀬口から国道 254 号線に入り、松本トンネルを抜け、洞交差点を右折し旧国道 254 号線を少し走ってから「女鳥羽川」を渡り対岸の道を初めて走り浅間温泉の北側を抜け、県道 282 号線の終点に着き、少し県道 282 号線を走り、三差路を左折、市道に入り、ここから急坂が始まる、急坂を登り切ると市道と林道の境の表示があり、暫く行くと沢を渡り、カーブの多い登りの道が続き、登り切ると、浅間温泉から別のルートで登ってきた道と一緒に。ここから美鈴湖までは平坦な道になる。

この急坂、ツール・ド・美ヶ原高原自転車レース大会の目玉のようで、松本市野球場駐車場(標高 640m)をスタートし、全長 21.6 km、標高差 1,270m、平均勾配 5.9%のコース。スタート後間もなくの名所?「激坂」が難所でありながら、この坂へのアタックを魅力とし全国から多くの参加者が集います。ゴールは標高 1910m のうつくしのテラス付近の県道 62 号線の終点(車の駐車場が付近にあり、ここから徒歩で美ヶ原王ヶ頭に登る)。急坂は前述の市道部分で、断面図で調べると 11%~20%くらいあり平均 15%にもなった。前に勾配を示す標識があったが今回は見当たらなかった。この急坂小学校時



代には、電車で終点の浅間温泉まで乗り、その後徒歩でこの急坂に出て、沢の手前で山道を登り、美鈴湖まで行った坂でもある。

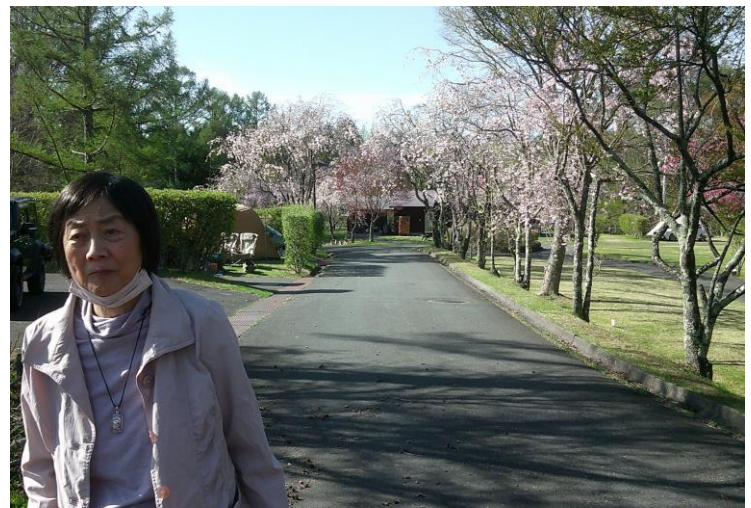
美鈴湖に着いて、東屋に車を止めて休憩した。美鈴湖は、1953年に芦の田から改称された名称で、私の小学生時代に冬にスケートをしに来た場所である。国体を見に来た記憶では、フィギアが屋外でスピードスケートのリンクの隣で行っていた事や、スピードスケートは一斉スタートして責任先頭制で帽子の色と旗で競技を行っていた。写真の場所は堤防のようになっており、人造湖のようだ。調べると安土桃山時代に最初に作られて、江戸時代にも造改修され、昭和に入り規模を更に大きくする事業が始まり1951年に完成し現在に至っている。



社会人になってからは、美ヶ原までの通過点の場所の時間が多く、屋外スケート場で1回スケートをしに来た事や、秋にスケート場に併設されたテニスコートでテニスをやった事はあった。美鈴湖のかつての屋外スケート場を見に行きましたら自転車のりっぱなバンクになっており写真に収めて来ました。目的の桜はどうも美鈴湖周辺ではなさそうなので湖畔を戻りながら探して見ました。美鈴湖から美ヶ原温泉に降りる道があったのを思い出しそちらに行くと湖畔から少し登った尾根（標高 1060m）に、オートキャンプ場が出ており、桜を発見した。桜の木は、まだ余り多くはない

が充分花見は楽しめた。又尾根に出来たこのキャンプ場、眼下に見える松本市街や、日本アルプスが見える景色は、すごく開放感が感じられる私好みの場所でもあった。

この尾根に出来た「美鈴湖の森の国オートキャンプ場」は2021年にオープンした。山と気軽に触れ合えるサービスを展開していることが、林業会社（柳沢林業）が営むこのキャンプ場の一番の特色と言える。そのサービスというのが、豊富な樹種から選



べる薪の販売です。場内に設えられた薪小屋には、燃料として人気の高いクヌギやナラに加えて、サクラ、ニセアカシヤ、スギ、ヒノキなどの薪が種類ごとに積み上げられていて、利用客は、針葉樹はバケツ一杯 550 円、広葉樹は 900 円で、好きな種類を選んで購入することができます。キャンプ場で薪を買うこと自体は多くのキャンパーが経験済みかと思われるますが、材質の違いに着目して薪を買うという経験は、なかなか



か味わえないのではないのでしょうか。木の種類によって、割りやすさ、着火しやすさ、火もちのよさ、熱量、香りが異なります。その違いを意識して火をおこせば、いつもの焚火がより味わい深いものになることは間違いありません。見た目でも新しいキャンプ場のかたちを手掛けていて、楽しいキャンプ場だ。

桜を見た後、美鈴湖に戻り、三才山一ノ瀬方面に降りる道を走り、国道 254 号線に出て帰宅した。県道 454 号線（浅間温泉三才山線）は、『認定告示のみで、区域決定の告示のされていない路線』の一つであり、起点が浅間温泉（県道 282 号線交点）で終点が三才山一ノ瀬（国道 254 号線交点）となっており、想像して 2 路線を考えてみました。昭和 49 年（1974 年）までは、本郷村（浅間・大村・水汲・原・洞・稲倉・三才山・横田・惣社）であった三才山地区は、美鈴湖を含め、美ヶ原の手前（武石峠）から三才山峠までのほとんどが山の地域で、現在の国道 254 号線に沿って集落がある。国道 254 号線（松本～東京）の三才山峠は、三才山トンネルが昭和 51 年（1976 年）に完成するまで自動



車の通行は出来なかった。その後国道の整備が進み浅間橋から鹿教湯温泉までスムーズに通行できるようになった。県道 454 号線の第一案は、浅間橋より旧国道 254 号線で洞交差点まで、整備前の国道 254 号線のルートで稲倉地区を通り三才山地区に入り、御射神社秋宮を通り、一ノ瀬集落（？）から新国道 254 号線と交わる。第二案は、浅間温泉（上浅間）の県道 282 号線の終点から少し下ると「御射神社春宮」に入る道があり、神社に向かって進み鳥居の前を左折し山道に入り、カーブの多い登り道をすすむと三叉路に当たり右折しゴルフ場横の道を通り、直進すると美鈴湖に行くがちょっと狭いが左折をして浅間峠を通り、下って三才山集落に到達し、御射神社秋宮を通り一ノ瀬集落（？）を通り国道 254 号線と交わるルートである（県道 454 号線走破）。

【付録】御射神社と松明祭り

御射神社は、文治 2 年（1186）吾妻鏡（あずまかがみ）にある古社で浅間社と呼び浅間郷（本郷六か村）を社領とする大社で、神宮寺を持ち正応 5 年（1192）には円空が写経を奉納している。建武 2 年頃（1335）浅間郷の地頭赤沢氏が諏訪より御射神社を勧請（かんじょう）し後に、御射神社春宮と呼ばれるようになった。古代の祭神は山ノ神であったが、後に諏訪大社と同じ祭神となった。現在の社殿は明治 28 年の再建で、本殿は神明造りになっている。

例大祭の松明（たいまつ）祭りは虫送りの行事から発生したもので昼の押鉾（おしほこ）：神輿）で神を送るのが主体であった。



歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.5.26

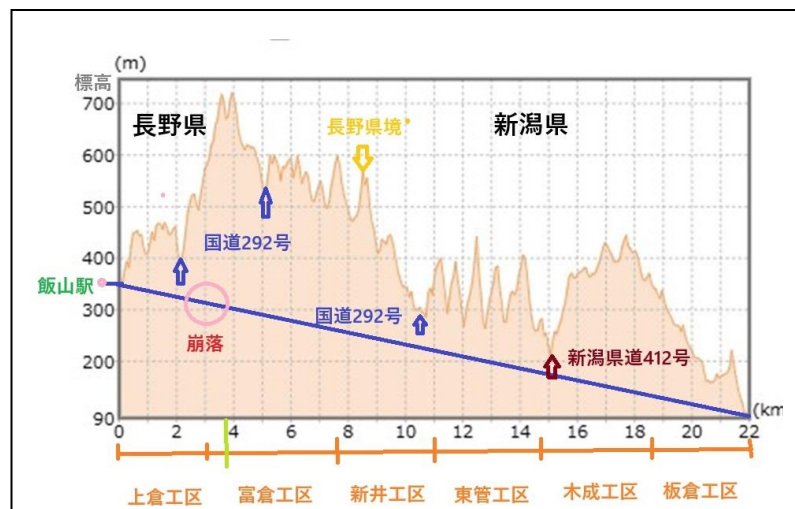
国道 292 号線で新潟県境を越えました(富倉そば)

澤田 繁 著

(長野県道 97 号走破)(長野県道 411 号/新潟県道 412 号走破)(長野県道 417 号走破)

(長野県道 503 号線走破)

2026.5.26、午後家を出て松本インターから高速に乗り、豊田飯山インターで降り、道の駅「ふるさと豊田」で休憩し、プロジェクトXで興味を持った北陸新幹線の飯山トンネルの何かないかと思い飯山駅に行きました。観光案内では詳しい人が不在でしたので駅構内を見て駐車場に戻りました(写真は飯山駅駐車場からトンネル入口を写しました)。帰ってから調べて見ると、飯山トンネルは、全長 22.251km の北陸新幹線のトンネルで、着工 2000 年貫通は 2007 年で、幾重にも重なる褶曲構造、膨張性の泥岩など複雑な地質構造、地質条件を持つため難工事であった(崩落



現場のシーンでは、縦になった地層で山の上から下に落ちた)。

トンネルは国道 292 号線に沿って地下を通っている。とりあえず飯山周辺を走り、国道 292 号線に入り富倉地区を目指す事にしました。

飯山駅より飯山市内を通り、県道 97 号線の始点でもある中央橋西交差点に着きました。国道 292 号線(群馬県長野原町~新潟県妙高市)は草津温泉、志賀高原、中野市、を通り飯山市伍位野交差点で国道 117

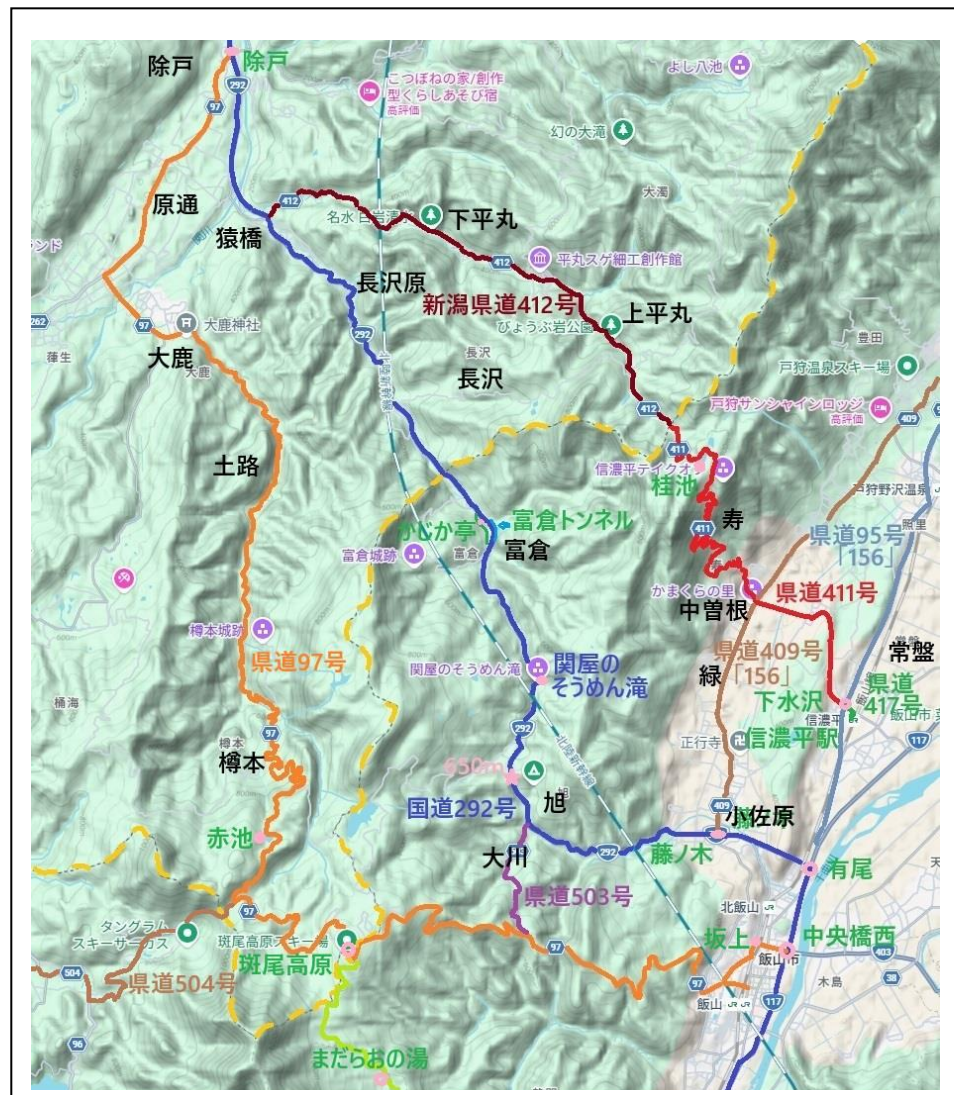
号線と一緒に、中央橋西交差点の先にある有尾交差点で分岐し新潟県に向かう。中央橋西交差点から有尾交差点の 300m 先から県道 95 号線に入り信濃平駅前まで行きました。信濃平駅(写真下)から県道 95 号線との交点である下水



沢交差点までの約 200m は県道 417 号線(信濃平停車場線)を走り(県道 417 号線走破)、そのまま直進して県道 411 号線(飯山新井線)に入りました。河岸段丘を登り左折し、長峰スポーツ公園を通り県道 409 号線に出て



富倉地区に入り、富倉トンネル手前を左折し、少し行くと旧富倉小学校跡に着いた。奥の方に「かじか亭」があり、笹ずしと富倉そばが食べられそうだが、火曜日定休日であった。富倉そばは、そばのつなぎにオヤマボクチの茸毛（葉の繊維）を使用していることで、風味がよく、腰が強いとされる。同様の製法の蕎麦に同じ北信地方の山ノ内町須賀川地区の須賀川そば（すがかわそば）、富倉に隣接する新潟県妙高市長沢の長沢そば（ながさわ



そば)がある他飯山地方に点在する。富倉地区で農家が営む食堂で提供される富倉そばは、十割蕎麦にも通じる香りの良さやコシが強くのど越しの良い麺の魅力と、交通の不便な地域でしか味わえなかった希少性から一部では「幻のそば」として紹介される。オヤマボクチが植えてあったのでそれを眺めて先に進んだ。富倉地区から県境を越えると、長沢そばの長沢地区(妙高市)に入り、下って行き猿橋地区の新潟県道 412 号線(飯山新井線)交差点から下平丸地区まで往復し、更に国道 292 号線を下り、除戸交差点で長野/新潟県道 97 号線を 1km 程先までを往復し、新井宿を目指し、途中から新井スマートインターに方向を変え、新井道の駅で魚を買い、スマートイ

ンターから帰宅した。

2022.9.27、中野インターで降り中野周辺を回り飯山線の^{はちす}蓮駅に寄り、国道 292 号線を北上し、途中から国道 292 号線と別れ信濃平駅に着いた。信濃平駅より県道 417 号線で県道 95 号線の交点（下水沢交差点・標高 350m）から長野県道 411 号線/新潟県道 412 号線（飯山新井線）



始まり、河岸段丘を登り、旧外様村（寿・中曽根・緑）の寿地区に入り、1km程整備された田んぼの道を進むと、県道 409 号線と交わり、

直進し集落を越えた所から山道になった。桂池付近が、一番標高が高く 820m、ここから終点までは下りになる。県境が標高 720m となり、妙高市上平丸地区に入る。県道飯山新井の路線は続くが番号が 412 号になる。順調に進んだが下平丸地区が災害復旧のため通れず林道を迂回し国道 292 号に出た。

2026.5.26、国道 292 号線の猿橋、県道 412 号線終点（標高 200m）から平丸川に沿って（深い谷が多かった）集落まで行きました。そこで集落の写真やめずらしい 3 口の消火栓を見て戻ってきました（長野県道 411 号/新潟県道 412 号走破）。



2021.11.2、豊田飯山インターから県道 95 号線を経由し、斑川を上り「まだらおの湯」の横を通り、斑尾高原（標高約 970m）に着いた。県道 97 号線に出て飯山方面に 2.5km 程下った所の三差路が、県道 503 号線の始点であり（標高 680m）これから大川集落（旧柳原村）に向かう、やまあいの標高 600m 前後にある集落であった。集落の近くに国道 292 号線が走っており、その交点が県道 503 号線の終点であった（県道 503 号線走破）。国道 292 号線を下って飯山方面に行き、県道 95 号線にて新潟県に行き日本海を見て帰った。



2021.8.3、豊田飯山インターで降り、飯山方面を散策し国道 292 号線で新潟県に入り、^{のぞきど}除戸交差点（写真下）から県道 97 号線に入った。最初の数 km は、新田と名がつく田園地帯を走り、大鹿集落を通り、山道に入った。土路川に沿っての登りの道で、旧妙高村（関山・豊葦・原通・大鹿）の豊葦地区（土路・樽本）を通り赤池（標高 900m）まで登る。土路川は赤池まで通じている。赤池からは、高低差があまりなく、県道 504 号線との交点に出た。ここからは 504 号線を通り、信濃町インターから帰宅し、後日（2021.10.12）県道 504 号線から県道 97 号線の交点まで戻り、ここから斑尾高原まで行き、少し休憩し、尾根の道を飯山市街まで降りて行った。尾根道なので、途中何か所も、北風に乗った雪から道を守るガードがあった。飯山市街に入り、新幹線の下をくぐり抜け、97 号線は新飯山駅方面に新路線がプラスで出来ており、本来の路線は左折し、飯山線の西側と暫く平行して走り、坂上交差点を右折（直進すると寺の多い道に行く）して、飯山線の踏切を渡り、千曲川の土手を走る国道と中央橋西交差点で交わる（長野県道/新潟県道 97 号線・飯山斑尾新井線走破）。この後国道 117 号線を走り、豊田飯山インターから帰宅した。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.6.9
松原湖を通る県道480号線(松原湖高原線)を走る
(県道480号走破)

澤田 繁 著

2026.6.9. 塩尻北インターで高速に乗り、岡谷 JCT から東京方面に向かい長坂インターで降り左折し、500m 先の五町田交差点を左折し山梨県道 28 号線に入る。早速八ヶ岳南山麓に高速道路反対の旗を発見、中部横断道の未開通部分である長坂から八千穂間 40km の運動が始まった。路線は、帯状の物が示されているが、その先(路線)に向かって地元との協議が進んでいるようだ。長坂(約標高 700m)から野辺山高原までは、700m 程登る道になる。県道 28 号線を進み、権現岳(八ヶ岳連峰)を水源とする川俣川の深い谷に架かる八ヶ岳高原大橋を渡るとすぐに駐車場があり、そこで写真を撮った。清里駅の北側を通り国道 141 号線に出た。

国道 141 号線を 3km 程登ると、長野県境を経て野辺山高原に到達した。昼食を買いに野辺山駅方面に行き、セブンで昼食を買ってから戻って、八ヶ岳まきばラインに入りました。高速道路は、野辺山から八千穂まで国道 141 号線に沿って西側に計画されており、八ヶ岳まきばラインは、計画高速道路の西側を通っているので、興味



本意で走って見ました。野菜畑が続き、横岳(八ヶ岳連峰)から流れる^{そまぞろ}杣添川を渡ると山林地帯に入り、しばらくすると開拓した野菜畑があり、そこを過ぎると谷間の道を下って国道 141 号線に出た。そのまま国道を走り、南牧村海尻地区を通過し、海尻洞門を通り小海町に入った。

小海町は、昭和 31 年に小海村と北牧村が合併し出来た町で、千曲川西部は、北牧村(千代里・豊里・稲子)となっており八ヶ岳連峰まで伸びて

いる。国道 141 号の松原湖入口交差点を左折し、県道 480 号線（松原湖高原線）に入り、畑や集落のある所を過ぎ、急カーブを登ると松原湖に到着した。松原湖の東側に狭い道を通り湖畔まで行ったが 100m 程で通れない道になっていて、引き返して県道 480 号線に戻りました。しばらく行くと、松原湖に通ずる道がありそこに入り、湖畔横の駐車場に車を止め、写真を撮りに行きました。湖畔から湖に向かって栈橋が伸びており、釣り人が十数人いて釣りを楽しんでいた。松原湖は冬のスケートとワカサギの穴釣りがあるが、この季節も釣りを楽しめる場所のようだ。



2020.10.11、岡谷インターからビーンズラインを通り、八ヶ岳ロープウェイに乗り、国道 299 号線に出て八ヶ岳の麦草峠を越え、八ヶ岳山麓を下って行き、レストハウスふるさとがある三差路を右折し、県道 480 号線に入り、シャトレゼのスキー場とゴルフ場横を通り、小海町高原美術館横をとおり、松原湖入口交差点で国道 141 号線に出て、山梨方面に向かい、中央道で帰宅した（県道 480 号線走破）。

2026.6.9、松原湖から県道 480 号線を八ヶ岳に向かって進み、火曜日休館の「小海町高原美術館」に行った。高原美術館は、1997 年 7 月 29 日開館。八ヶ岳の麓、長野県小海町松原湖高原に建つ、安藤忠雄氏設計の美術館です。洗練された空間は周囲の大自然と調和し、芸術に親しむための環境を与えています。当町出身で元国画会会員の画家、故栗林今朝男氏の作品、人間国宝で陶芸家の故島岡達三氏の作品を中心に所蔵し、郷土作家、現代美術、建築、デザイン等を扱った、特色ある企画展を開催しています。と案内がありました。休館日なので前で写真を撮って、美術館を後にして帰路についた。

県道 480 号線に戻り、途中スケートセンター（400m 外部リンク、冬季オープン）が見え、「小海シャトレゼ」に寄り、コーヒーとケーキで休憩し、国道 141 号に戻り、八千穂高原インターから佐久南インターまで高速を利用し、国道 254 号線（国道 142 号線と一部重複）で三才山トンネルを通り、松本市街で用事を済ませ帰宅した。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.6.14

クマザサ(隈笹)の花・60年に一度咲く？

澤田 繁 著

クマザサの花に気づいたのが5月中旬、清水高原の観光道路沿いに発生している。私がここに住んで48年、初めて見ました。私の中学校か高校の時に竹が枯れ、竹は60年に一度花が咲きそして枯れると聞いた記憶があり、周期はよくわからないが花が咲いて枯れるのは確かなようだ。自宅(標高1200m)の周りにもクマザサが生えているが、何年に一度か草刈をやるせい、背丈は腰のあたりであるが、1600m付近に行くと身長程に伸びて、熊が中に入ると見えない。



クマザサの花は、緑がかった紫色の小さな花

で、イネ科の植物で、実がなり、秋には動物の食べ物になりそうで、道路沿いが危険になりそうです。

日野製菓のサイトに、興味ある「生菓ブログ」が目についた。まれに開花、葉はお茶や薬草に。茎(棹)の先に長さ2~3センチの紫色の小穂を出し、小花を付ける。シナノザサと思われるクマザサと聞くと、長野県の人にはクマが出るような深山に生えるササを連想し、ある人は「根曲がり竹」、正確にはチシマザサをクマザサとも呼ぶ。しかし、植物分類学上のクマザサは京都府付近に自生し、全国的には庭や公園で栽培される



種で、分布は限られている。冬に葉の周囲が枯れて、白色に隈取(くまど)られるため「隈笹」と命名された。しかし、ササの仲間、たとえば長野県内でも中南部に多いミヤコザサ、中北部に多いシナノザサ、所々に分布するチマキササでも冬には葉の先端や周囲は枯れる。温帯の日本ではササの仲間に花がつくのは珍しいこととされている。周囲のササが広範囲に一斉に開花し、そのあと枯れるそうだが、近年は温暖化のためか、まばらに開花した状況をよく目にする。薬草としては先にあげた種のすべてが利用される。ササの葉に包むと

食べ物が長持ちするといわれるが、これはササに含まれる安息香酸の殺菌・防腐作用に由来する。葉にはリグニン、鉄、カルシウム、各種ビタミン類が豊富に含まれ、胃潰瘍、胃炎、口内炎などに使われる。生の葉をミキサーにかけたり、乾燥した葉を焙じて、お茶代わりに飲むこともされる。

食物を笹の葉で包むことは、よくされ、笹飴、笹餅など知られている。信州では下高井郡山ノ内町渋温泉の「地獄谷のチマキ」がよく知られる。蒸したもち米を笹の葉に包んで、さらにふかしたものを、黄な粉(きなこ)をつけて食べる。また、飯山市では、ちらし寿司をササの葉の上に盛る「謙信寿司」が名物である。いずれも、ササの葉の持つ保存作用を生かした利用法である。

歳時記ホームはこちら

<http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>